

[第37回] クイズ チャレンジ!!



琵琶湖文化館の収蔵品の中から、あるいは知っているようで知らない文化財のことについて、あれこれクイズにしてみました。さあ、答えがわかるかな？気軽にチャレンジしてみよう！

問題 93

江戸中・後期に活動した絵師の岸駒^{がんく}は、特にリアルな虎^{とら}を描いたことで知られています。当館が所蔵する巖上吃哮猛虎図^{がんじょうほうこうもうこず}は、岸駒の長男である岸岱^{がんだい}が描いた作品で、滝水の流れる険しい岩^{けわ}の上で、身体をひねりながら猛々しく吠える虎が、力強く描かれています。では、問題です。画技の指導にも厳しかった父・岸駒が、リアルな虎を描くために、した事とはいったい何だったのでしょうか？次の中から選んでください。



巖上吃哮猛虎図 岸岱筆 本館蔵



- ① トラの頭蓋骨を取り寄せた
- ② トラ柄の衣装を取り寄せた
- ③ ミケネコを飼った

ヒント：[🔍 収蔵品紹介 < 絵画 < 巖上吃哮猛虎図]

問題 94

みなさんはお正月に家族で“つま”んだりしますか？「とんなんしゃーぺー」。

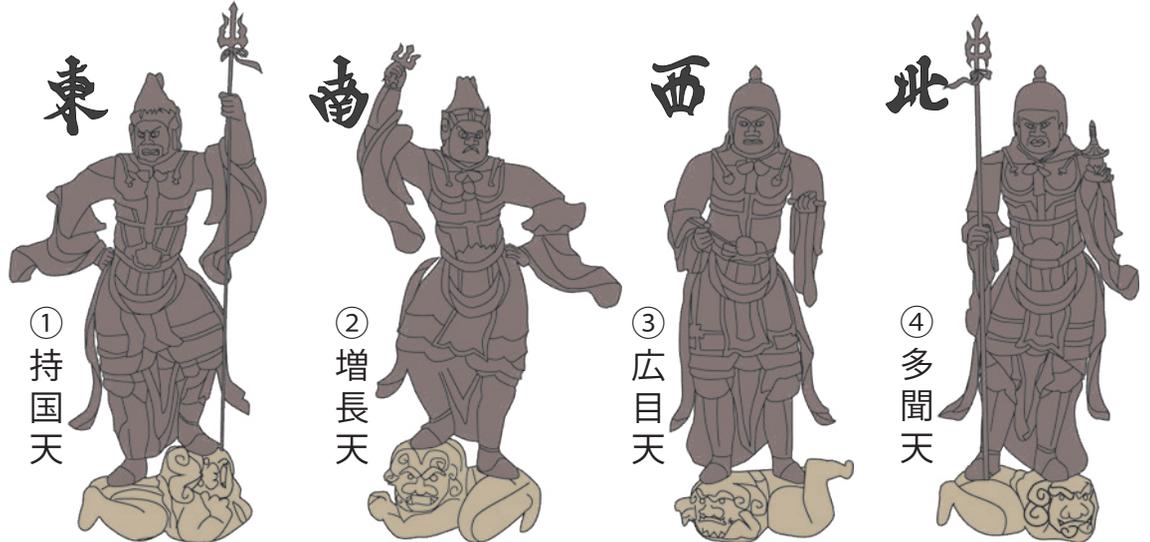
この言葉で麻雀を連荘^{マージャン}・否^{レンチャン}・連想^{レンソウ}した方、なかなかのツワモノかもしれません(笑)。



しかしこの[まにあQ]では、仏教で四方を守る「とんなんしゃーぺー (東南西北)」についてお勉強します。

天部^{てんぶ}に属する四天王^{してんのう}は、忿怒相^{ふんぬ}で、甲冑^{かっちゅう}を身につけ、邪鬼^{じゃき}を踏^ふみつけます。本尊^{ほんぞん}に向かって右^{みぎ}が持国天^{じこくてん}、左^{ひだり}が増長天^{ぞうちょうてん}、後方左^{こうもくてん}が広目天^{ひろもくてん}、右^{みぎ}が多聞天^{たもんてん}と、配置されることが多いです。では問題です。この中で、特に『別格』とされる存在は、いったい誰でしょうか？

配置について「東南西北ではないの？」と不思議に思われる方もいらっしゃるかもしれませんがね。仏教では中国由来の「東南西北」が当たり前…。時計回りと覚えましょう。



滋賀県立 琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先
TEL / 077-522-8179 FAX / 077-522-9634
E-mail / biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp
ウェブサイト / http://www.biwakobunkakan.jp

クイズの答えは、裏面に豆知識と一緒に掲載しています。当館のウェブサイトでは、様々なクイズを随時更新しています。答えのヒントとなる「滋賀県の指定文化財」や「収蔵品紹介」などのページもご覧いただけますので是非チェックしてみてくださいね。



[第37回] クイズチャレンジ!!



【解答編】

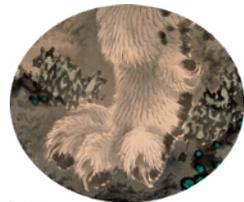
答え 93

正解【① トラの頭蓋骨を取り寄せた】

岩上吃哮猛虎図
岸岱筆
(本館蔵)



ずがいこつ
とら
虎を直接目にする機会がなかった当時、岸駒は中国の商人から本物の虎の頭蓋骨を入手し、知人から虎の皮を借り受けて被せ、スケッチを重ねました。その後、四足も入手して各部の採寸、牙や歯の本数や形状、また四足の関節の構造まで綿密に記録し、今までにないリアルな虎を誕生させ、世間を驚かせました。本図は、岸派のお家芸ともなった「岸駒の虎」を見事に引き継いだ作品です。



この実物(剥製)を実際に触ったことがあるという人の感想…「ずっしり重かった」…そうですヨ。。

答え 94

正解：【④ 多聞天 (たもんてん)】

多聞天は、「毘沙門天」とよばれ、四天王の中で唯一単独で信仰される別格の存在です。毘沙門天は、インド神話の生産と財宝をもたらすクーベラ神が元となっているため、七福神の一神としても庶民のあつい信仰を受けています。多聞天の一番の特徴は、手に「宝塔」を持っていることです。この宝塔には、仏教の教えやお経、あるいはお釈迦様の遺骨(仏舍利)などが入っているとされる大変重要なもの。ただ、これは日本でのことで、中国ではネズミ、チベットではマンガースを手にしたことがあるようです。。(ネズミは子(北)の方角の象徴、マンガースは金や銀などの財宝を吐く!のどとか?!…さすが別格。。)

四天王の中で私は唯一七福神

七福神では「毘沙門天」と呼ばれます。

北
多聞天

西
広目天

東
持国天

増長天

南



ち・な・み・に!

四天王のメンバーを東南西北の並び通りに、覚えるコツがあります。その方法とはズバリ!

『地蔵買うた(じ・ぞう・こう・た)』

こくてん	ちようてん	もくてん	もんてん
(東)	(西)	(南)	(北)



足下に踏みつけられている邪鬼は、悪さをする鬼とも、天に仕える家来ともされます。この邪鬼、意外と表情が面白かったりしますので、実物を見る時には注目してみるのもオススメです♪

